

公開実用 昭和61- 137048

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭61-137048

⑬ Int.Cl.

B 60 R 11/02
B 62 D 25/06
H 04 N 5/64

識別記号

厅内整理番号

7443-3D
6631-3D
6517-5C

⑭ 公開 昭和61年(1986)8月26日

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 テレビ格納式車室天井

⑯ 実 願 昭60-20997

⑰ 出 願 昭60(1985)2月16日

⑲ 考案者 山本 伸明 横浜市保土ヶ谷区東川島町1番地の3 池田物産株式会社
内

⑳ 考案者 照井 満 横浜市保土ヶ谷区東川島町1番地の3 池田物産株式会社
内

㉑ 考案者 胡桃沢 正雄 横浜市保土ヶ谷区東川島町1番地の3 池田物産株式会社
内

㉒ 出願人 池田物産株式会社 横浜市保土ヶ谷区東川島町1番地の3

㉓ 代理人 弁理士 岩倉 哲二 外1名



明細書

1. 考案の名称

テレビ格納式車室天井

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 車室天井に凹部を設け、前記凹部の端部に薄型テレビジョン受像機の上端部を回動可能に配設したテレビ格納式車室天井。

(2) 前記テレビジョン受像機が前記車室天井に対し角度調整可能に配設された実用新案登録請求の範囲第1項記載のテレビ格納式車室天井。

3. 考案の詳細な説明

《考案の技術分野》

本考案は車室内に配置するテレビジョン受像機（以下TVと略称する。）に関し、特にTVを車室天井に配置するようにしたテレビ格納式車室天井に関する。

《従来技術とその問題点》

車室内に配置されるTVは、通常、車室天井にブラケットを介して取付けられる場合が多い。

またこの種のテレビでは、特に急ブレーキや運



行時における振動が加わっても外れ落ちる虞れがないように固定しなければならず、一般に簡単に取外すことができない取付構造が採用されている。

従つて、テレビを車室天井に一旦取付けた場合には、狭い車室スペースという制約上、不使用時において非常に邪魔になり、例えば乗員がTVにぶつかる虞れもあつて、安全性に欠けていた。

しかも、TVによつて視界が遮られてしまうという不具合もあつた。

《考案の目的》

本考案は、上記事情に鑑みなされたもので、不使用時にTVを格納できる車室天井を提供することを目的とする。

《考案の構成》

上記目的を達成するためには、本考案では、車室天井に凹部を設け、前記凹部の端部に薄型テレビジョン受像機の上端部を回動可能に配設したこととする。

《実施例の説明》

第1図は本考案を適用した車室天井からTVを



引出した状態を示す斜視図、第2図はTVを格納した状態を示す斜視図である。

図において、フロントシート1の上方の車室天井には、適宜大きさの凹部3が設けられ、凹部3にTV4を格納したケース5が回動可能に配設されている。

前記ケース5は凹部3に格納される大きさの薄型箱体状からなる。ケース5の裏面は、ケース5を凹部に格納した閉状態で車室天井2の一部を構成する（第2図参照）。ケース5の内部には周知の薄型TV4が画面を上向きにして収納されている。TV4には電源コードやアンテナ（不図示）等が接続されている。

またケース5は、第3図に示すように、ケース5の上端部5aが軸6によって凹部3の車両方向前端部3aに回動可能に枢支されるとともに、ギア7とロック部材8によって角度調整可能になっている。

すなわち、ケース5の上端部5aには、外周に複数の係止凹部7aを有する扇状のギア7が取付



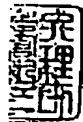
けられている。このギア7はインナーパネル2Aの切欠部21aから係止凹部7aが突出するようケース5に固着されている。またロツク部材8は板バネからなり、前記ギア7に対向してアウターパネル2Bに固定されている。

ロツク部材8の先端には、係止凹部7aの1つと選択的に係合する突部8aが設けられている。このようにケース5及びTV4を凹部3に角度調整可能に配設することにより、TV4の配置角度を最適な状態に調整できる。

なお、TV4の角度調整機構としては、上記実施例に限定されず、種々の構造のものを用いることができる。また、上記実施例ではTV4はケース5を介して凹部3に配設したが、TV4はブレケットなどを介して回動可能に配設しても良い。

更に、ケース5には、第4図に示すように、ケースの下端部5bにロツク装置が設けられている。

ロツク装置は、ケース5の下端部5bの内部から両端部9a, 9bがそれぞれ外部に突出するL字状の係止部材9と、係止部材9の摺動を案内す



るガイド軸 10 と、係止部材 9 を一方向に付勢するコイルスプリング 11 と、係止部材 9 の突出端部 9 b を係止する略 T 字状のブラケット 12 とを備えている。

ブラケット 12 はアウターパネル 2 B に固定されるとともに、インナーパネル 2 A の孔 21 b と同一位置に係止孔 12 a が形成されている。したがつて、係止部材 9 のロックを解除する場合には、係止部材 9 の一端部 9 a を矢印方向に押圧して、滑動させる。

第 5 図は、前記ケース 5 のヒンジ部における変形例を示したものである。

TV 4 を格納したケース 5 は、軸 6 によってインナーパネル 2 A の凹部 3 に回動可能に枢支されている。ケース 5 の上端部 5 a とインナーパネル 2 Aとの間にはリンク 13 a とリンク 13 b とが配設されており、この両リンク 13 a, 13 b の連結部を折曲げてケース 5 を凹部 3 に格納する。

このように TV 4 の回動及び角度調整をリンク構造で構成することにより、簡易な構造のものと



することができる。

《考案の効果》

以上説明したように、本考案によれば、TVを使用しない場合には、TVを車室天井の凹部に格納することができる。これにより、TVの不使用時には邪魔にならず、しかも運転者などの後方視界を妨げることがなくなる。

4. 図面の簡単な説明

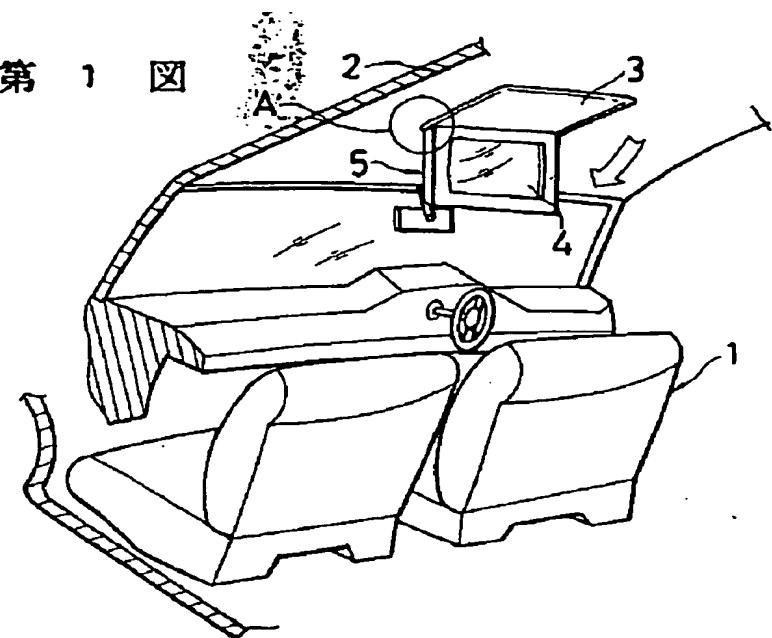
第1図は本考案を適用した車室天井からTVを引出した状態を示す斜視図、第2図はTVを格納した状態を示す斜視図、第3図は第1図のA部における部分断面図、第4図は第2図のB部における部分断面図、第5図はヒンジ部の変形例を示す縦断面図である。

2A…インナーパネル、2B…アウターパネル、
2…車室天井、3…凹部、4…テレビジョン受像機（TV）、5…ケース、6…軸、7…ギア、
8…ロック部材。

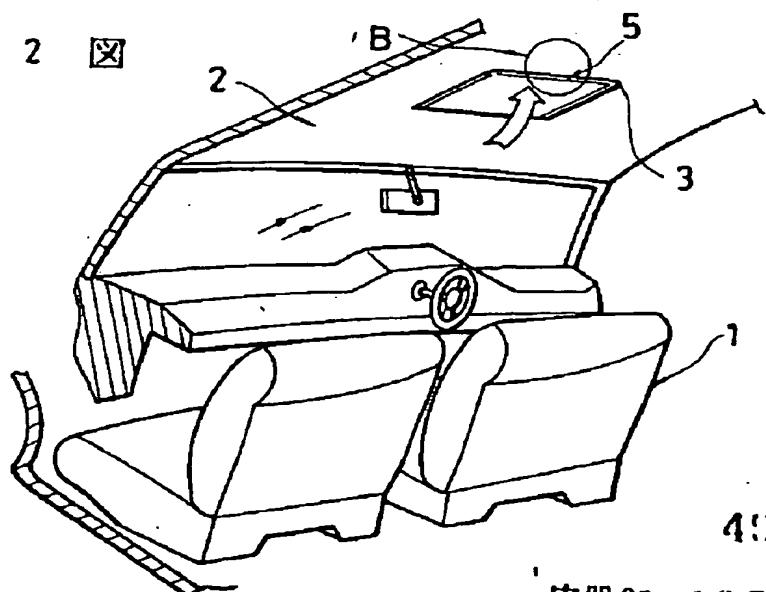
実用新案登録出願人 池田物産株式会社

代理人 弁理士 岩倉哲二（他1名）

第 1 図



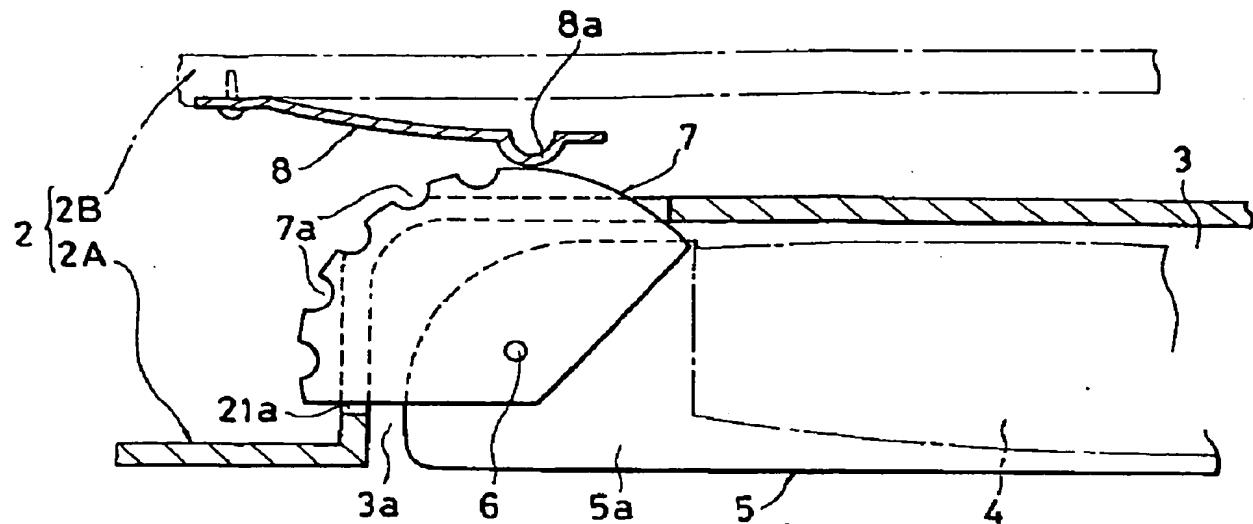
第 2 図



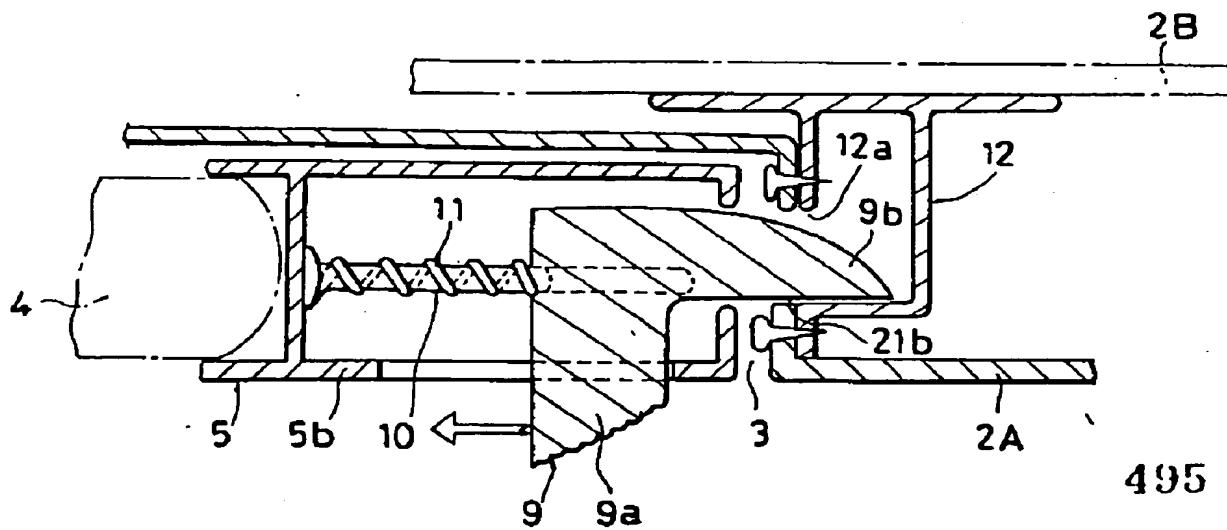
494

実開61-137048
代理人 弁理士岩倉哲二(他1名)

第 3 図

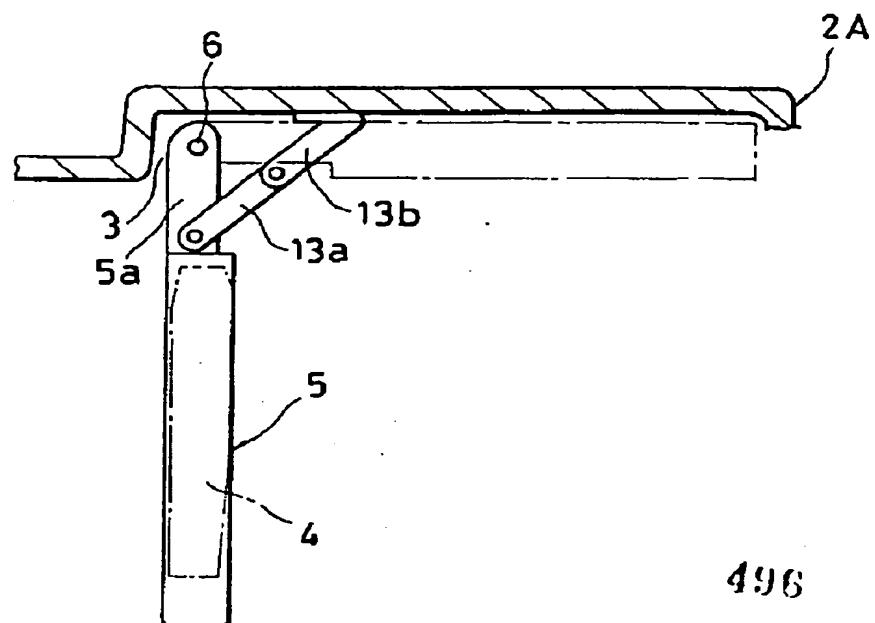


第 4 図



実開61-137048
代理人 助理士岩倉哲二(他1名)

第 5 図



実開61-137043
代理人 弁理士岩倉哲二(他1名)